

アチェに対する宗教勢力の支援

見市 建*

地震と津波の被害を受けたアチェにはさまざまな勢力が被災者の支援に入っている。宗教団体も少なくなく、なかには「イスラム原理主義」と名指しされてきた団体も含まれている。こうした団体の登場に非常に神経質になっている欧米のメディアもある。ここではアチェで支援活動を行っていると考えられている諸団体について情報を整理するとともに、こうした宗教団体が復興支援を行うことによって起こりうる影響について若干の私見を述べたい。

アチェで活発に活動している宗教団体としては、ムハマディヤ、福祉正義党、イスラーム擁護戦線(FPI)、ラスカル・ムジャヒディンなどの存在が伝えられている。まずムハマディヤは1914年にジョグジャカルタで結成されたインドネシアを代表するイスラーム教育社会団体である。近代的な学校や病院を多数建設し、イスラーム教徒の福利厚生の上昇に努めてきた。ムハマディヤは近代主義イスラームと呼ばれ、彼らはコーランとハディースに体现される本来のイスラームに回歸することによって、初めて中世的な伝統や迷信を捨て去り、西洋近代に追いつき追い越すことができるという思想を持っている。ムハマディヤはかねてからアチェに学校を建設するなどの活動を行っており、日本政府がアチェ和平の窓口としてムハマディヤ青年団との対話を行ったこともある。今回の支援で陣頭指揮を取っているのは中央

執行部幹部のディン・シャムスディンである。彼は政府機関であるインドネシア・ウラマー評議会のスポークスマンも務めており、2001年に味の素製品がイスラーム法に反するとの判断を発表した人物である。ディンはインドネシアにおけるイスラーム共同体の一体性やイスラーム政治勢力の大同団結を強く推進する立場にあり、また次期ムハマディヤ議長の座を狙っているともいわれている。アチェにおける活動は彼にとって絶好の舞台を提供しているという見方も可能であろう。

福祉正義党(PKS)は2004年4月の総選挙においてバンダアチェで30%以上の得票を獲得して第一党になっており、ムハマディヤと同様にアチェに活動基盤がある。福祉正義党は1970年代後半以降に都市部で発展した大学生の宣教運動を前身としており、1998年のスハルト体制崩壊に乗じて政党を結成した。自らを「宣教政党」と呼び、宣教(ダアワ、呼びかけ)とイスラーム共同体の福祉の上昇に極めて真面目に取り組んでいる。既成政党の汚職体質を批判し、清廉潔白さをアピールして昨年の総選挙では前回の5倍以上である得票率7.3%に躍進した。福祉正義党には理系エリートが多く、医療関係者の支持者も多いため、アチェでは実質的な支援が期待できる。

さて問題は残りの二団体である。イスラーム擁護戦線(FPI)はジャカルタでバーやディスコなど

* 京都大学東南アジア研究所

イスラーム法に反する場所を襲撃することで有名な団体である。代表のハビーブ・リゼク・シハープは器物破損などで逮捕され服役したこともある。ハビビ大統領時代の 1998 年 11 月の国民協議会開催にあたって左翼学生と対抗させるために国軍が動員したやくざや民兵が原型であるといわれている。バーなどの襲撃についても警察の用心棒代稼ぎの片棒を担いでいるとの説もある。現地からの情報によれば FPI は(非イスラームの)国際機関とも協力して活動しているという。国軍や警察との関係が近いだけにむやみに欧米人を襲ったりすることは元々考えにくい、やくざ的な組織にしては意外に戦力になっているようである。

最後のラスカル・ムジャヒディン(聖戦士部隊)はジョグジャカルタのムジャヒディン(聖戦士)評議会の私兵組織である。ムジャヒディン評議会は、国際テロ組織ジャマーア・イスラミヤ(JI)の代表だとして公判中のアブ・バカル・バアシルが代表を務め、インドネシアにおいてイスラーム法を施行するべく中央・地方の政府に働きかけを行っている。アンボンやポソにおけるキリスト教徒との宗教紛争においても部隊を派遣した現地で宣教やリクルートをしていたとみられる。「合法的に」イスラーム法の施行を目指しており、爆弾テロを主たる手段とする JI(の武闘派)とは袂を分かつているともいわれる。アチェでの活動はよく分からな

いが、報道によればインドネシア・イスラーム大学の学生らと共に遺体の収容袋や医療器具を持ち込んだという。彼らは極めて反米、反キリスト教徒の思想を持っており、本格的な宣教活動を展開することが危惧される。しかしアンボンやポソと違って利害が対立して敵となるようなキリスト教徒はアチェにはほとんどおらず、また支援に来ているアメリカ軍や NGO をあからさまに攻撃するようなことがあればイスラーム教徒のなかからも大きな批判を受けるだろう。イスラーム教徒が困っている同胞を助けるのは至極当然の行為であり、FPI もムジャヒディン評議会も非合法化されているわけではないので活動を制限するわけにはいかない。宗教対立のないところに地元で基盤のない彼らが入っていったところで影響力は非常に限定的であろう。

もっとも心配なのは海外からキリスト教徒の宣教団体がアチェに入ったり、そのような噂によってキリスト教徒との戦いが正当化されることである。すでにアメリカのワシントンポスト紙がキリスト教系のワールドヘルプがアチェの孤児 300 人をキリスト教徒化するためにジャカルタに移送したとの報道があった。過度に警戒する必要はないが、もし上記のイスラーム団体を通してアチェの援助を行うのであれば、せめて受け手の来歴についてはよく調べ、せつかくの支援が紛争の原因にならないようにモニターはしておくべきであろう。